

給食の食材の産地やその割合を知り、地産地消に関心を持とう。

挑戦!

大分県立大分豊府中学校 2016年度  
適性検査Ⅰから抜粋(一部改変)

はるなさんとだいきさんは、地域に受けつがれた農業や食文化に興味をもちました。先生に相談すると、「給食の食材が100 % 県内産の日があるよ」と教えてくれました。そこで、その日の献立例や毎日の給食の食材の生産地(産地)についてさっそく調べてみました。

【はるなさんとだいきさんが調べてまとめた内容】

ある学校の「学校給食1日まるごと大分県」の日のこん立

こん立例

ごはん、牛乳  
白菜のごまあえ  
とり天  
みそしる

この日のこん立の主な食材

給食の主な食材の産地別使用量など

【表1】平成25年度

食材	こう目	総使用量(kg)	うちわけ(kg)			A(%)
			県内産	県外産	外国産	
米		37273	37245	28	0	99.9%
牛乳		183427	183427	0	0	100.0%
パン(小麦等)		18804	2818	0	15986	15.0%
肉類		29656	18759	9949	948	63.3%
野菜類		93795	49510	40986	3299	52.8%
その他		62892	32264	18525	12103	51.3%

【表2】平成26年度

食材	こう目	総使用量(kg)	うちわけ(kg)			A(%)
			県内産	県外産	外国産	
米		46704	46556	15	133	99.7%
牛乳		192591	192591	0	0	100.0%
パン(小麦等)		20428	4221	43	16164	20.7%
肉類		25618	14753	9320	1545	57.6%
野菜類		99236	53958	42073	3205	54.4%
その他		73341	38473	19031	15837	52.5%

(大分県教育委員会ホームページをもとに作成)

会話文1

はるな：お米が100%県内産ではないことにびっくりしたね。  
だいき：外国産のお米まで使っている年度もあるよ。  
はるな：どの年度もパンの材料は他の食材に比べて県内産の割合が一番低いね。肉類はどうなっているかな。  
だいき：肉類は平成25年度に比べて、平成26年度は県内産や県外産の割合が減ったけど外国産の割合は増えているね。  
はるな：そう言えるのかな。表には県外産や外国産の割合は示されていないから、割合を年度で比べることは、まだできないと思うの。

資料問題編⑧

地元産食材の利用割合を調べてみると

だいき：そうなのかな。おたがいにグラフに表して比べてみようよ。

問題1 だいきさんは「外国産のお米まで使っている年度もあるよ」と言っています。この時、だいきさんは、【表1】と【表2】のどちらの表を見て言ったのか答えなさい。また、その年度に外国産のお米が使用された量を答えなさい。

問題2 はるなさんは、表のこう目Aの数値を見て「パンの材料は他の食材に比べて県内産の割合が一番低いね」と言っています。それぞれの食材のこう目Aの数値は、表のどのこう目の数値を使って計算したものか、次の□の言葉の中から二つを選んで書きなさい。

総使用量の数値 県内産の数値 県外産の数値 外国産の数値

問題3 はるなさんとだいきさんは、二人が表したグラフについて話しています。

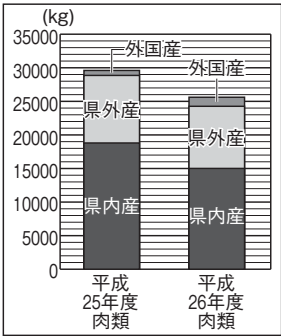
会話文2

はるな：【だいきさんが表したグラフ】では、( ① )ができるわね。

だいき：【はるなさんが表したグラフ】では、( ② )ができるね。

はるな：わたしたちがグラフに表そうとした理由は、□だったよね。

【だいきさんが表したグラフ】



会話文2の中にある( ① )( ② )に最も当てはまるものを、次のア～ウから選んで記号で答えなさい。

ア それぞれの産地の肉類が使用された量や合計を見たり、二つの年度で産地別の使用量や合計がどのくらいちがうのかを比べたりすること

イ それぞれの産地の肉類が使用された量を見たり、二つの年度で産地別の割合がどのように変化したのかを見たりすることを、一つのグラフの中で表すこと

ウ それぞれの産地の肉類が使用された割合を見たり、二つの年度で産地別の割合がどのように変化したのかを比べたりすること

問題4 会話文2の中にある□に当てはまる文を、会話文1をもとにして書きなさい。ただし、文末は「ため」で終わるように書きなさい。また、二人がグラフに表そうとした理由から考え、どちらのグラフを使うとよいか答えなさい。

問題5 次の文は、だいきさんが県内産の肉類の使用量と割合について説明したものです。この説明を参考にして、県外産の肉類の使用量と割合について説明する文を書きなさい。

平成25年度から平成26年度にかけて、県内産の肉類の使用量は、

18759kg から14753kg へと減っていて、その割合もおおよそ63%から58%へと減っています。



解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう!



問題1 【表1】【表2】それぞれの米の外国産の数量を見れば明らかです。

問題2 自給率を考える問題です。自給率とは、簡単に言うと、自分のところを使うものをどれだけ自分のところで作り出しているのかということを割合(%)で表したものです。つまり、県のある食材で考えると、自県のその消費量(総使用量)に対する、自県でのその生産量(産出量)を百分率(%)で表したものが、その食材の自給率となります。

問題3 グラフを読み取る上でのポイントは、グラフのタイトル、つまり何についてのグラフなのかという点と、グラフで使われている単位が何であるのかという点です。本問では、タイトルが伏せられていますので、単位を手がかりに考えていきましょう。

問題4 会話文1では、県内産肉類の割合の年度による比較について語られているので、当てはまる文面、使われているグラフともに自ずから決まってきますね。

問題5 「この説明を参考にして」とありますので、同様の書き方で、県外産の肉類について書いていきます。割合の計算では、表の数値(%)と同様に小数第1位まで出し、それを四捨五入して整数値で出していくことが説明文からうかがえます。



問題1 (表)表2 (使用された量)133kg

問題2 (言葉)総使用量の数値、県内産の数値(求め方)それぞれの食材の県内産の数値を、総使用量の数値で割って、100をかけることで求められる。

問題3 ①…ア ②…ウ

問題4 (グラフに表そうとした理由は、)平成25年度と平成26年度で給食に使われた肉類の産地別の割合を比べ、それぞれの割合がどのように変化したかを確かめるため(グラフ)はるなさんが表したグラフ

問題5 (平成25年度から平成26年度にかけて、)県外産の肉類の使用量は、9949kg から9320kg へと減っているが、その割合はおおよそ34%から36%へと増えている。